



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月4日

上場会社名 株式会社 極洋

上場取引所 東

コード番号 1301 URL <https://www.kyokuyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 誠

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営管理部長 (氏名) 檜垣 仁志

TEL 03-5545-0703

四半期報告書提出予定日 2022年11月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	133,619	10.5	5,375	66.8	5,805	69.3	4,208	72.6
2022年3月期第2四半期	120,880	3.4	3,222	133.6	3,428	127.7	2,438	54.5

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 4,432百万円 (78.6%) 2022年3月期第2四半期 2,481百万円 (14.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	391.96	
2022年3月期第2四半期	226.63	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	150,833	45,482	30.5
2022年3月期	130,460	42,174	32.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 46,027百万円 2022年3月期 42,705百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期				90.00	90.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)				90.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	275,000	8.4	7,000	9.5	7,000	1.4	4,900	5.7	455.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) Kyokuyo Vina Foods Co.,Ltd. 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	10,928,283 株	2022年3月期	10,928,283 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	211,593 株	2022年3月期	170,523 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	10,735,972 株	2022年3月期2Q	10,757,684 株

(注) 当社は業績連動型株式報酬制度を導入しており、期末自己株式数には当該信託口が保有する当社株式が含まれております。また、当該信託口が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は2022年11月10日に機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P2
(1) 経営成績に関する説明	P2
(2) 財政状態に関する説明	P3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P4
(1) 四半期連結貸借対照表	P4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	P6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P9
(継続企業の前提に関する注記)	P9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P9
(セグメント情報等)	P10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大があったものの、経済活動の持ち直しがみられた一方で、円安の進行に歯止めがかからず、依然として先行き不透明な状況が続きました。

水産・食品業界におきましても、コロナの感染が再拡大すると、回復傾向にあった外食産業に一時停滞の動きが見られ、生産面では原材料価格の高騰や原油価格の高止まり、輸送費の上昇などにより、厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中で、中期経営計画『Build Up Platform 2024』（2021年度～2023年度）の2年目として、『経営基盤の強化を図りながら、「事業課題への継続的取組み」と「持続的成長への挑戦」を柱とする戦略を進め、社会と極洋それぞれが共有すべき価値を創造していくことで、新たな成長への礎となる「高収益構造への転換」を目指す。』という基本方針のもと、目標達成に向け取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は1,336億19百万円（前年同期比10.5%増）、営業利益は53億75百万円（前年同期比66.8%増）、経常利益は58億5百万円（前年同期比69.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は42億8百万円（前年同期比72.6%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

(水産商事セグメント)

水産物相場の高値に起因した消費の鈍化が憂慮される中、全体として販売数量は減少したものの、業務筋の需要回復と先高観による原料確保の動きに販売単価の上昇が加わり、売上が拡大しました。国内販売においては、主要魚種のサケ、エビの原料・加工品や魚卵の販売が好調に推移しました。

海外事業については、円安の影響もあり、ホタテや北洋魚の輸出、北米でのエビの販売が伸長しました。この結果、売上・利益とも前年同期を上回りました。

水産商事セグメントの売上高は605億86百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益32億17百万円（前年同期比25.0%増）となりました。

(食品セグメント)

業務用冷凍食品は、回転寿司ルートで寿司種の販売が順調に推移したほか、底堅い量販店の惣菜売り場向け需要に加えて外食・給食ルートの回復もあり、水産フライやエビフリッターなどが伸長しました。収益面では、値上げを実施したものの、それを上回る主副原料、包装資材、物流費などの高騰が続き、カバーするに至りませんでした。

市販用冷凍食品は、煮魚・焼魚を中心にコンビニエンスストア、宅配、ドラッグストア向けの販売が拡大しました。缶詰は、コスト上昇が収益を圧迫する苦境が続いたものの、市場全体で価格改定が進む中、新規顧客開拓に努め、主力のサバ缶、イワシ缶を主体に売上が伸長しました。おつまみ・珍味製品は、消費者の志向に変化が見られ、販売数量が落ち込みました。この結果、売上は前年同期を上回りましたが、利益は前年同期を下回りました。

食品セグメントの売上高は522億98百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益は4億64百万円（前年同期比25.1%減）となりました。

(鯉・鮭セグメント)

世界的な需要の高まりによる原料相場の上昇が続く中で価格改定を実施しましたが、外食ルートの回復を背景とした力強い需要があり、販売は減少することなく好調に推移しました。刺身用トロ商材として輸入冷凍クロマグロ・インドマグロの販売が増加したほか、キハダマグロなどの赤身の販売も順調となりました。また、加工品はマグロタタキなどが回転寿司ルート向けを中心に伸長しました。以上のことから、計画を大幅に上回る利益を確保しました。さらに、国産養殖クロマグロは品質の維持に努め、安定供給で収益を確保し、海外まき網事業は、水揚げ数量は減少したものの、カツオの魚価上昇により、収支が改善しました。この結果、売上・利益とも前年同期を上回りました。

鯉・鮪セグメントの売上高は198億78百万円（前年同期比25.7%増）、営業利益は22億5百万円（前年同期比375.0%増）となりました。

（物流サービスセグメント）

冷蔵倉庫事業においては、在庫数量が増加し、庫腹率が高い状態が続きましたが、燃料費高騰による電気料金の上昇が、引き続き収益を圧迫しました。利用運送事業は、外部取引先との取引拡大により、売上が伸長しました。この結果、売上は前年同期を上回りましたが、利益は前年同期を下回りました。

物流サービスセグメントの売上高は6億42百万円（前年同期比16.2%増）、営業利益は89百万円（前年同期比6.4%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ203億73百万円増加し、1,508億33百万円となりました。

流動資産は、棚卸資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ203億44百万円増加し、1,198億71百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末に比べ29百万円増加し、309億61百万円となりました。

負債合計は、短期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ170億65百万円増加し、1,053億50百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ33億8百万円増加し、454億82百万円となりました。

この結果、自己資本比率は30.5%（前連結会計年度末比2.2ポイント減）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しては、2022年5月13日に公表した業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,544	6,067
受取手形及び売掛金	28,683	36,889
棚卸資産	54,629	68,237
その他	9,678	8,687
貸倒引当金	△9	△10
流動資産合計	99,527	119,871
固定資産		
有形固定資産	18,897	19,705
無形固定資産	350	361
投資その他の資産		
投資有価証券	9,272	8,310
繰延税金資産	1,136	1,395
その他	2,873	2,787
貸倒引当金	△1,597	△1,597
投資その他の資産合計	11,685	10,894
固定資産合計	30,932	30,961
資産合計	130,460	150,833

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,950	10,998
短期借入金	15,714	32,617
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
未払法人税等	1,081	2,194
引当金	1,053	1,008
未払金	7,791	5,592
その他	6,344	5,852
流動負債合計	56,936	73,264
固定負債		
長期借入金	27,021	27,730
引当金	404	421
退職給付に係る負債	3,648	3,652
資産除去債務	29	29
その他	244	252
固定負債合計	31,348	32,086
負債合計	88,285	105,350
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,664	5,664
資本剰余金	1,330	1,330
利益剰余金	32,507	35,742
自己株式	△429	△575
株主資本合計	39,072	42,162
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,234	2,396
繰延ヘッジ損益	343	995
為替換算調整勘定	292	664
退職給付に係る調整累計額	△237	△190
その他の包括利益累計額合計	3,632	3,865
非支配株主持分	△530	△544
純資産合計	42,174	45,482
負債純資産合計	130,460	150,833

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	120,880	133,619
売上原価	106,951	116,774
売上総利益	13,929	16,844
販売費及び一般管理費	10,706	11,469
営業利益	3,222	5,375
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	67	73
持分法による投資利益	5	46
為替差益	130	365
受取保険金	18	164
補助金収入	137	52
その他	94	105
営業外収益合計	454	809
営業外費用		
支払利息	187	216
棚卸資産廃棄損	16	78
訴訟損失引当金繰入額	4	5
貸倒引当金繰入額	△0	—
その他	39	80
営業外費用合計	247	379
経常利益	3,428	5,805
特別利益		
固定資産処分益	3	298
受取保険金	—	3
国庫補助金等収入	35	—
特別利益合計	39	302
特別損失		
固定資産処分損	2	1
減損損失	4	1
災害による損失	—	32
固定資産圧縮損	33	—
投資有価証券評価損	7	—
特別損失合計	48	35
税金等調整前四半期純利益	3,419	6,072
法人税、住民税及び事業税	993	2,073
法人税等調整額	60	△195
法人税等合計	1,053	1,878
四半期純利益	2,366	4,194
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,438	4,208
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△71	△13

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	△838
繰延ヘッジ損益	△32	652
為替換算調整勘定	76	376
退職給付に係る調整額	44	46
その他の包括利益合計	115	238
四半期包括利益	2,481	4,432
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,551	4,440
非支配株主に係る四半期包括利益	△69	△8

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,419	6,072
減価償却費	911	993
減損損失	4	1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	0
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	86	70
その他の引当金の増減額(△は減少)	35	△48
受取利息及び受取配当金	△68	△74
支払利息	187	216
投資有価証券評価損益(△は益)	7	—
災害による損失	—	32
売上債権の増減額(△は増加)	1,042	△7,797
その他の債権の増減額(△は増加)	△334	2,218
棚卸資産の増減額(△は増加)	△9,643	△13,150
仕入債務の増減額(△は減少)	3,432	646
その他の債務の増減額(△は減少)	899	△2,687
その他	58	△213
小計	38	△13,719
利息及び配当金の受取額	71	75
利息の支払額	△189	△230
災害による損失の支払額	—	△17
国庫補助金等の受取額	35	—
法人税等の支払額	△1,605	△968
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,649	△14,859
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	△1	△171
固定資産の取得による支出	△3,217	△1,677
固定資産の売却による収入	3	322
投資有価証券の取得による支出	△37	△200
貸付けによる支出	△34	△66
貸付金の回収による収入	23	4
その他	△0	△16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,265	△1,806
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,913	17,989
長期借入れによる収入	2,657	1,596
長期借入金の返済による支出	△1,038	△2,574
配当金の支払額	△864	△972
その他	△85	△218
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,583	15,820
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	187
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△306	△659
現金及び現金同等物の期首残高	7,097	6,539
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,790	5,880

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産商事	食品	鰹・鮪	物流 サービス	その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益及び 包括利益計 算書計上額 (注2)
売上高								
外部顧客への売上高	57,848	46,471	15,808	552	198	120,880	—	120,880
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,003	2,641	2,024	508	701	18,879	△18,879	—
計	70,851	49,113	17,833	1,061	899	139,759	△18,879	120,880
セグメント利益	2,574	620	464	95	56	3,811	△588	3,222

(注) 1. セグメント利益の調整額588百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用663百万円が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産商事	食品	鰹・鮪	物流 サービス	その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益及び 包括利益計 算書計上額 (注2)
売上高								
外部顧客への売上高	60,586	52,298	19,878	642	213	133,619	—	133,619
セグメント間の内部売上高又は振替高	17,077	3,683	2,938	556	720	24,976	△24,976	—
計	77,663	55,981	22,816	1,198	934	158,595	△24,976	133,619
セグメント利益	3,217	464	2,205	89	98	6,075	△700	5,375

(注) 1. セグメント利益の調整額700百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用845百万円が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。